

質疑回答一覧表（第二期武蔵野市学校施設整備基本計画 審議経過説明会）

※質問及び回答については、会場での発言をできる限り忠実に再現したものです

会場	質問	回答
第六中	鉄筋コンクリート造の建物であれば、100年以上の耐久性があるのではないか。建設コストが高騰しているタイミングで改築を進めるのは得策ではない。第二中、第六中の再編について、最終的に誰がどうやって決定するのか。インクルーシブの観点欠けている。	鉄筋コンクリート造の耐用年数は60年が目安であり、躯体の健全度を踏まえ、60年以上使用するか方針を決める。市立小中学校全校建て替えるのに20年以上かかる。現行の計画の中で、全校建て替えることとしている。耐用年数100年の鉄筋コンクリート造については、既存校舎が立てられた時代よりもより強度の高いコンクリートで建て替えることになる。建設費の高騰は確かに進んでおり、市としても懸念事項であるが、今後数年で建設費が下がることはないと考えている。第二中、第六中を再編し、統合新校を設置することを含めた第二期計画の検討については、教育委員会から審議会に諮問している状況。令和8年12月に審議会から教育委員会に出される予定。教育委員会は、答申を受けた上で検討し、計画を策定することになる。これまで毎月の市長・教育長会議で市長部局へは進捗を報告している。今後は、答申案がまとまったタイミングで総合教育会議で協議する。予算については市長部局と協議したうえで、市議会の議決が必要になる。答申案について、行政報告する。インクルーシブについて、第7回審議会でも議論になった。第8回審議会で審議予定である。
第六中	第六中をなくさないでほしい。中間まとめp.15にある3つの方策の中で、小規模校のまま存続とあったが、現状9学級あるので決して小規模校ではない。適正規模（12学級以上18学級以下）について、根拠がないまま審議されていると感じている。教員をしていた友人から12学級だと正規教員の配置が十分にされると聞いた。12学級程度が適正規模ではないか。教育委員会として、適正規模の判断を改めてほしい。生徒が700人いると、校長が生徒全員の顔を覚えられない。一度再編すると元に戻すことは容易ではない。第7回審議会の資料4の中で、適当な距離感の居場所という話があったが、統合するとかなり大きな学校になり、適度な距離感が取れなくなる。一人当たりの面積を決めるべきではないか。18学級を超えたときの手立てはどう考えているか。	令和8年度の第六中の学級数は、9学級ではなく7学級である。第二中と第六中が再編し、統合新校を設置すると、18学級を超える可能性については審議会でも説明したとおりあるが、統合新校を建てるには早くて8年程かかり、その時点で18学級の目安である630人を少し超え、そこから数年18学級を超える可能性がある。過去に児童数700人の小学校で校長をしていたが、全ての児童の顔を覚えていた。一人当たりの面積については、良い視点だと思う。
第六中	正規の教員が配置できなくなっている中、講師の確保ができない等の話で違和感があった。話は変わるが、第7回審議会の資料4のイラストを見ると4学級になっている。6学級が適正ということであれば、6学級の絵にすべきだと感じた。	学級数が多い方が正規の教員が配置される可能性が高くなっている実情がある。教員が足りない場合、講師を配置する必要があるが、時間数が少ないと講師を引き受けてくれないことも多い。複数校兼務するにも、時間割が合わないとならないため難しい。第7回審議会の資料4のイラストについては、検討したい。経緯を説明すると、現行の計画ではイラストがなく、イメージが伝わらない部分があったため、今回イラストを使用した。これまで改築を進めてきた4校（第一中、第五中、第五小、井之頭小）のイラストを採用したため、6学級にはなっていないが、参考に検討していく。
第六中	説明会の参加者数が少ない。第二中、第六中だけでなく、他の中学校についても、統合を進めるべきだ。	説明会の開催にあたり、ホームページ、SNS、リーフレット配布など、できる限りの周知をしているが、なかなか来ていただけていない現状がある。引き続き周知を進めていくが、ぜひ本日の参加者の方には、他の方をお誘いいただきたい。再編については、審議会での審議が必要である。
第六中	審議会を傍聴してきた。1月の説明会で審議会傍聴者アンケートを取らないかという意見をして、市民委員が意見しにくくなるためアンケートは取らないという回答だった。しかし、第6回からアンケートが再開している。これは市民委員に意見を言わせないためか。子どもの学びを第一にというキーワードがあるが、子どもがどういった活動をするかをイメージすることが重要である。活動内容、人数の前提条件がわからないと議論にならないと思う。再編はすべきではない。教員が足りない場合、講師、地域人材に頼ればよいと思う。	アンケート再開の要望があった中で、パブコメ後の第6回から再開した。
第六中	第二中、第六中を再編した場合の通学が心配。第二中、第六中以外にも学校があり、交通量がかなり多い現状がある。安全性の確保が課題。	市としても課題として認識している。昨年度から部活動の拠点校方式を開始し、安全講習会受講、ヘルメット着用、保険加入などの条件で自転車通学を認めており、大きな事故はなく進められている。現在、第五小、井之頭小の改築に伴い、スクールバスの運行を実施しているが、運転手不足が課題であり、スクールバスの利用は難しいと考えている。ご意見として承る。

会場	質問	回答
第六中	説明会の参加者が少ないのは、いつも同じ説明をされ、結論が変わらないとあきらめているからである。第二中、第六中が再編し、通学距離が遠くなることは大きな課題である。第二中、第六中の再編に反対である。再編した場合、青少協はどうなるのか。これまで青少協として、学校、地域のことを考えてきたのに、どうして第六中がなくなるのか。第六中が小規模存続した場合のメリットデメリットを提示したうえで、第二中、第六中再編のメリットデメリットと比較しながら審議してもらいたい。	第6回審議会で通学距離の資料をパターン分けし示している。ご意見として承る。
第六中	防災はもちろんだが、学校は地域にとって大きな存在である。境地域からどんどん拠点がなっている。地域に学校があるというのはまちづくりの視点で大きい。	ご意見として承る。
第六中	第二中、第六中の再編が決定事項であるように聞こえる。第六中は残してほしい。児童生徒数推計も作為的に感じる。中間まとめ13ページの主要論点やその後のパブコメを見ていると、大人の都合ばかり書いてある。子どもの学びを第一に決めていくのではないのか。	教員の指導体制については、大人目線だけでなく、子どもの教育に直結するものである。ご意見として承る。
第六中	審議会の進め方が雑である。会長が強引に適正規模を12学級以上18学級以下にまとめた印象がある。少人数学級について、以前の説明会で市から国に要望しているということだが、審議会では全く議論されていない。市でも30人学級なり、25人学級なりが良いと考えているなら、その前提で審議したらどうか。話をそらしている印象を受ける。	1学級当たりの定員は減るといいとは思うが、現状は35人学級と決まっているため、この条件で検討すべきと考えている。ご意見として承る。
第六中	第二中と第六中を再編する理由がわからない。私立進学率が都内でも高いが、今後どうなると考えてるか。大規模校だと多様な人と関わることができるとあるがどうなのか。学級数の少ない学校の方が目が行き届くのではないか。市として今後学校教育をどうしていきたいかが検討されていない。第7回審議会の資料4のイラストだけでなく、審議会での事例紹介でも小規模校を取り上げることが多いと感じている。大規模校は時代に逆行している。学校の名前、場所が変わると愛着がなくなる。他の中学はどうなるか。	武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画の中で中学校の適正な数を検討することになったことから、現在審議会を設置し、検討している。審議会では、子どもの学びを第一に12学級以上18学級以下が適正規模としてまとめた。第六中は20年後、今よりも生徒数が増え、第二中は減る。それぞれ適正規模に満たない規模のため、再編し、統合新校を設置することが望ましいとまとめられた。第三中、第四中については、次期計画策定のタイミングで最新の人口推計をもとに検討していくと考える。
第六中	場当たり的な印象を受ける。	ご意見として承る。
第六中	人口推計について、桜野小の見通しが外れたことについて、どのように活かそうと考えているか。パブコメ、児童生徒アンケート等の意見はしっかり読んでいるのか。特に児童生徒のアンケート。	桜野小が設置されたときの経緯は確認している。境北小は全学年単学級、桜堤小も単学級が複数発生していた。直近の人口推計をもとに児童生徒数推計を実施している。児童生徒のアンケートは、第7回審議会資料4のP.5で、さまざまな出会いができる多様な居場所として、反映している。児童生徒数に応じて延べ床面積を算定するように計画する。
第六中	児童生徒数が増えることで、敷地面積が増えるわけではない。誤解を生む表現はやめるべきである。桜野スポーツ広場の話も残っていたはず。	第二中、第六中を再編し、統合新校とする場合、第二中敷地及び旧桜堤小敷地を想定しており、生徒数に応じた床面積を計画できるという意図での発言である。
第六中	境南小の児童が、第二中、第六中を再編し、統合新校を設置すると中学校で別れなくてよいという意見があった。一方で、学区域の弾力化を対策として検討してることは矛盾している。	審議会では学区域の弾力化は、統合新校と第五中を選択できるという趣旨で示されている。
第六中	学級数が大きくなるとルールで縛ることになるという話を聞いた。パブコメの回答で、学級数が大きくてもきめ細かい指導ができるという回答があったが、疑問である。	ご意見として承る。
第二中	先日6/30の審議会を傍聴した際、たたき台の案の資料があったが、今回は配布しないのか。	一昨日実施したばかりなので今回は配布しない。ホームページで確認していただきたい。
第二中	今回の説明会はあくまで中間まとめに関する内容で、第7回審議会の内容には触れないのか。	第7回の審議会は細かい施設整備の中身の話になっているので、口頭でお答えすることはできる。
第二中	昨日の説明会でも参加者が少ないと言っている人がいたが、今回も議員が多い有様。第一地区と第二地区のジャンボリーの救命救急講習で本日は六中にいる。そういう状況での説明会の日時選びはどうか。地域の青少協や開かれ、PTAに関する人がいま来るわけにいかないという状況。どこかで説明会やフォローはないのか。	日中働いている方がいることを考慮して平日夜間で設定している。また明後日は土曜日なので午前中にし、全部で3回設定しており、その中で参加いただければと考えている。
第二中	昨日の六中で決定事項だから地域は諦めていると言われたのがショックだった。武蔵野市は市民参加で物事を決めていく市政だと思っていた。この3回がもっと話せる場だと知らせればいいのと思った。統合再編といった場合、二中に六中が入るのは吸収合併というイメージがぬぐい切れないのでは。六中地域にとってはナーバスな問題。私は二中学生の保護者だったし、六中にも愛着がある。それぞれを残し建て替えて欲しいと考えている。もう少し丁寧な議論が必要だと思う。第三期には三中も含めて検討するとなった場合、推計上だと少ないのでどうなるのか。せっかくなら人数が少ないならのびのびとした武蔵野市らしい校舎にしてほしい。	8ページにそれぞれ築年数を記載している。中学校だと二中・六中以外だと三中・四中が残ることになる。生徒の推計は10ページに記載している。今回の審議会では三中の部分については触れていないが、改築の前にはどうするか方策を検討していく必要があると考える。

会場	質問	回答
第二中	全市的な視点からの中学校の数という諮問に基づいて審議していると思うが、二中・六中の方策が中心に議論されている。どの辺りが全市的な審議なのか。	二中・六中に限らず、これからの学校をどうやって建て替えていくのかという全市的なところから議論をスタートした。学校の数を決めていくにあたり、どの程度の規模感が必要なのかという議論から始めている。その中で改築にはどうしても地域の実態も含めて考える必要があるので、再編も含めて様々な方策を審議いただいた。
第二中	昨日の六中での説明会の質疑を聞くと、どうしても六中が二中に吸収される統合のイメージがついてしまう。もっと西部エリア全体から通いやすい場所はないのか。	審議会の中ではあくまで統合新校であると考えている。建て替える土地は二中が適正なのかも議論にあがっている。案として学区域のほぼ中央にある公園も審議であがったが、市有地ではない。統合新校を建てられるようなまとまった広さのある土地がないというのが現状。
第二中	先日見学した特別支援学校では教室が足りずにカーテンでしきっている状況だった。武蔵野市からも数十人の生徒がいたが、その生徒が市立の学校に通いたいとなった時の未来の学校施設について、審議会はどの範囲を審議するのか想定をお聞かせ願いたい。	この審議会で特別支援については少し出てきたが、今の小中学校に通っている子どもの中で、少し支援が必要となるような子どもを対象にした居場所を特別支援として審議する想定。内容としては不登校気味の子や、医療的ケア児について出るのではないかと想定している。 特別支援学級に通う児童は年々増えているという感覚はある。推計や全体的な数字は出ていないが、学校でカーテンやパーテーションで対応している実情はある。
第二中	広く意見を聞いていくのであれば説明会という名称が違っていたのでは。	ご意見として承る。
第二中	昨日傍聴者の意見はアンケートに取っているが、説明会はとっていないという。広く意見を聞くというのであれば、説明会でもアンケートをとるべきではないか。昨日も言いたいことがあったが言えなかったと言われた。	ご意見として承る。 (7月4日の説明会ではアンケートを実施)
第二中	子どものアンケートは載っているが、大体の意見では小規模がいいと読み取れるのでは。審議委員はどのような感想を持っているのか。	直接アンケートに対しての意見はないが、パブコメと同様な意見、大規模校への不安や、学校を別れずに進学できるメリットなど両論の意見が出ていることを確認いただいていると思う。
第二中	アンケートの中で空間的な意見も出ているが、子どもがそれを望んでいるという点については。	子どもの意見も取り入れてたたき台を作成している。子どもはいろいろな居場所を求めているという意見がでてる。議事録は現在作成中なので、詳しくは後日ホームページを確認してほしい。
第二中	子どもを大きい学校にやった経験としては、常に新しい教室を作ることを学校はやっていた。無理やり作った教室なので、ロッカーが足りないなど。また普通教室以外がなくなっていった。二中も普通教室を増やさなくてはならなかった。部屋はあるがエアコンがないなど。子どもたちの言う豊かな状態の確保というのが難しかった。	新しい学校についてはその点も考慮して整備する必要があると考える。
第二中	子どもたちの中で同じ意見を持っている子がどれくらいいるかと正直思っている。学校に行きづらい子が周りにちょこちょこいたり、前向きに統合を考えられない子がいる。 地域としても各学校の文化もある。 一番は子どもの心のケアを地域にも保護者にも組み立ててほしい。改めてお願いしたい。	ご意見として承る。
第二中	心のケアという意味では、六中が吸収合併の形に見えると傷つくのか心配。5ページの築年数からすると二中は60年を超えるということで建て替えが必要だが、統合すると8年後でも18学級を超えることを考えると、統合することを考えなくていいのでは。先に小学校を改築してはどうか。二中だけを建て替えることは考えられないのか。国も適正規模を強要していないと思うので、それも含めて大がかりだなと思う。 初めて来た方も発言していただけるといいのでは。	もともと第一グループで決まった学校が6校、経緯としては築年数と、建物の強さも調べている。その中で少し強度が弱い学校もあるので、単純に築年数が長いから建て替えるわけではない。中学校と小学校どちらを先に建て替えるかという話で、先に小学校を建て替えると、小学校で仮設校舎だった子が、進学先の中学校でも仮設校舎で過ごすことになるのを避けるよう配慮している。
第二中	子どもたちの意見の中で、教室のなかで音の反射が気になる子や、廊下で配膳や片づけをすると、食べ物のおいがこもるので、その匂いがしんどい、といった声もある。換気や音の面も考えていったほうがいいのでは。光、音、においに敏感な子もいる。給食は自校式が増えているので、そういった配慮も必要なのでは。	換気、光、音の視点は重要だと考えている。新しい学校は換気の空調を入れている。従来は窓を開ける自然換気だったが、新校舎は窓を開けずとも常に換気できる。またCO2センサーを入れているので必要に応じた換気量を増やせるなど、新しい学校はそういったものを取り入れている。
スイングホール	桜野小は統合後に児童数が1000人を超えてしまった。この辺りにはまだ緑の土地があるので、マンション等立つ余地があるので同様に人口が増えるのではないか。	今回の10ページの推計は昨年度実施した。直近5年間の人口推計を地域ごとに出し、専門業者で算出した。前回は将来的にまだ伸びる推計だったが、今回の推計では武蔵野市でも将来的に減少する。外国人の増加率も含めて算出しているが、全体としては減少すると出ている。直近の動向を見た上の推計をとり、それを基に審議会で審議いただいている状況である。
スイングホール	リーフレット児童生徒アンケートは誰が主導でとったのか。	審議会事務局である教育委員会でアンケートを作成し、各学校の校長に依頼して実施した。

会場	質問	回答
スイングホール	児童生徒アンケートの回答数は全人数の1/5。もっと深掘りすべきではないか。	アンケートは小学校4年生から中学校3年生に書いてもらった。アンケートの取り方は今後も検討していきたい。回答は義務付けられないが、今後もこういった機会は設けたい。
スイングホール	児童生徒アンケートは中間まとめを読んでもらった上で回答してもらっているのか。	リーフレットを子ども向けに作成して内容を理解してもらえるようにした上で、アンケートをとった。回答方法は学習者用コンピューター（タブレットPC）で二次元コードを読み込み、LoGoフォームで回答してもらった。
スイングホール	児童生徒アンケートの回答を見ると、統合することありきにとらえられていると感じた。ここは伝え方を見直していただきたい。	ご意見として承る。
スイングホール	桜堤小と境北小が統合するときにもめたと聞いた。場所は境北小だが、名前は桜野小となったが、これは大変大きな問題だと考える。境北小と境南小は対の名前なのになぜ境北小を消してしまったのか疑問だ。順を追えば、境北小を残して統合するべきだったのでは。過去の筋を曲げて名前を変えたのはどうなのか。議論はされたのか。また過去を繰り返してしまうのではないか。一中から順番に中学校の名前がついているので、学校の名前の歴史も踏まえて考えてほしい。	再編のやり方も審議会で審議している。統合して新校を建てる場合、片方に吸収される統合の場合などがある。
スイングホール	自分もマンモス高出身なのでメリットデメリットがわかるが、18学級超えるのは大変ではないか。やはり交通手段の不安があると思うので、こういった形で通学を考えているのか早めに明示してほしい。	ご意見として承る。
スイングホール	アンケートは夢のような話で実感がわかない状態だと思うので、卒業後に、例えば成人式など、振り返ってみて思うといった形のアンケートをとるのはいかがか。	時期ややり方など検討したい。
スイングホール	統合した場合の通学距離について、自転車通学だと車道を走ることになる。通勤通学時間帯は車の交通量が多い。かなり子どもが車道に出るし、登校時間にぎりぎりですピード出す子どもが多い。飛び出しの事故が多いと聞いている。学区域の弾力化や自転車通学の他に、スクールバスの運用はどう考えているか。	改築工事中の第五小と井之頭小でスクールバスを運行している。これは期間が限定しているので受けてもらえているが、バスの運転手が不足しているため恒常的な実施には課題がある。またバスの乗降所をどこに置くかということも課題になる。自転車の危険性も審議会で出ている。自転車通学を認めるにしても、条件付けは必要との意見が出ている。安全講習やヘルメット、保険にはいるなどはもちろんだが、江戸川区では通学距離2km以上など条件を付している例もあるので、そういった点も踏まえて今後審議していただくことになる。
スイングホール	自転車通学の件で、過去に二中で自転車通学が認められた経緯と、廃止された経緯をご存じか。その経緯も知らないのに審議するのはいかがか。	確認する。
スイングホール	ムーバスを利用するなども検討するべきだ。審議会の進め方が知識不足に感じる。第6回審議会では土地をどこにするかなどという話をするべきではない。がっかりした。	ご意見として承る。
スイングホール	桜堤地区は公団の建て替えに伴って人口が一時的に急激に減少したことが原因だったが、その後マンションが建つことは容易に予想できたはず。将来的に増えることが明らかなのに慌てて進めるべきではない。過去は推計が誤っていた。長い目で見たら、中学校を減らすことをこの時点で決定する意味を大事にして、広く市民に知らせるべきだ。	ご意見として承る。
スイングホール	16ページのメリットデメリットの小規模存続のデメリットはせいぜい財政問題だけだ。そういう観点からも今後の中間まとめの出し方を考えたほうがいい。ちゃんと両論があり、その事を審議に問うという姿勢を中間まとめに出すべきではないか。	小規模のデメリットとしては、再編のメリットの裏返しになる部分があると考ええる。例えばクラス替えをする場合、小規模校だと人間関係に配慮できない。そういった議論も審議会ではなされている。ご意見をいただきながら答申に向けて引き続き審議いただく。市民周知については、審議会ごとにリーフレットで周知をかけ、パブリックコメントで意見をもらいながら進めることを心がけたい。今回の説明会の意見もまとめてHPにあげ、審議会にも伝えていく。
スイングホール	クラスが多いほうが教員が多いという意味が分からない。教職員の配置基準が、10クラス2校と、20クラス1校だと、教職員の数は10クラス2校のほうが多いのではないか。1人の先生が見る子どもの数で論ずるべきだ。	子どもを見る絶対数はもちろんそうだが、都の教員配置は学級数が増えれば増える。ある学級数を超えると、そのプラスが増えていく。教員が増えると、生徒1人に対して見る目が増えるという意味で書いている。明確な基準は確認する。 (以下、ホームページ掲載時に追記。) 東京都公立中学校の教職員定数配当基準によると、校長・副校長・教諭・養護教諭・事務職員を合わせて10学級で19名（校長1、副校長1・教諭15名（学級数＋5名）・養護教諭1名・事務職員1名）となります。教諭の人数が12学級以上になるとプラス1名、15学級以上になるとプラス1名、16学級以上になるとプラス1名、18学級以上になるとプラス1名、19学級以上になるとプラス1名、20学級以上になるとプラス1名となるため、20学級だと35名（校長1、副校長1・教諭31名（学級数＋11名）・養護教諭1名・事務職員1名）となります。

会場	質問	回答
スイングホール	8年位前に吉祥寺南町地区で保育園を増設する際、青少協に市の人に来て、今後子どもが増えると説明されたが、現状は減少している。今回の推計が同じように出されているのであれば大いに疑問が残る。同一の出し方で前回と今回が違うのか。直近5年間で生まれた子どもの数であれば、20年後がどうしてわかるのか。前回と今回の推計の違いも含めて教えてほしい。	直近5年間のそのエリアの出生数と、転入転出数といった人口動態をベースにしている。女性の出産年齢を設定していると聞いている。
スイングホール	前回と今回の条件の違いは何か。何かが変わったから変わったのではないか。	出産年齢の幅を以前はもっと広くとっていたと聞いている。
スイングホール	人口推計に土地の条件はあまり勘案されていないのか。小金井は農地の分譲で人口が急増していると聞いている。境地区は今後分譲される余地があるのでは。そういったことは加味されているのか。	大型開発があると市役所に届出がある。そういった計画の有無を加味したうえで反映していると聞いている。ご指摘の通り農地は多いが、相続のタイミングは読めないため、それは反映されていない。
スイングホール	境地区の統合の経緯は、今でも覚えている。その後の経過を見ていると、住宅事情を見誤ったとしか思えない。本宿小も一時児童数が減少したが、今はマンションが建設中である。住宅事情が読めないといっても、境エリアには畑があるし、市への届出よりももっと手前でリサーチしないと読めないだろう。鉄道会社の社宅から人が減ったので四小は児童数が減少している。住宅事情をどこでどう考えるのかが一番重要だと思っているので、10ページの人口推計は今の時点としかわからない。	ご意見として承る。
スイングホール	公立学校に入学した子どもの数字がでてこない。公立学校への進学率がどこからも読み取れないが、家庭の事情で公表できないのか。	9ページ図表11に進学率を掲載している。市内在住の小学生の約1割が私立国立小学校に進学している。同様に中学校は45パーセント弱が私立国立中学校に通っている。なお児童生徒数推計では、学校ごとの進学率も直近の実績を見ながら統計に反映している。
スイングホール	私立国立に進学する具体的な人数を知りたい。人数の変遷。そうでないと地域事情が読み取れない。地域の学校を選ばない家庭が増えているかどうかを知りたい。家庭の事情と切り捨てるのではなく、公立中学校の魅力を伝えきれていないのではないか。もっと根本的な問題として捉えてほしい。	ハード面でも魅力のある学校、新しい考え方を取り入れた学校づくりをすることも魅力づくりの一つになると考えている。
スイングホール	第1回のとき、六中地域の方が六中をなくさないでほしいと意見があった。学校は地域の拠点だし、子どもが愛着を持って地域にかかわっていく機会が減ってしまう。六中、二中それぞれに愛着があるので、統合しないで欲しい。子どもの学びと言いながら、校長、副校長、養護教諭、専科の先生などは1名ずつだし、事務員も増えない。やはりトータルでは教職員数は増えないのではないか。調布で22学級学校に勤務している知人の話だと、教員は増えないと感じているそう。統合計画の変更の余地はあるのか。審議会で意見が出ても、全体の総意ではないように見受けられる。先に境南小から建て替えるという方法はないのか。そういったいろいろな意見を今後審議会で審議する余地はあるのか。三中はどうなっていくのかも心配だ。地域あつての学校なので、地域の方が納得できる方策で建て替えてほしい。	ご意見として承る。
スイングホール	人口推計の取り方には何パターンかあると聞いた。人口推計がこの通りに行くとは限らないので、子どもは増える方向で考えたほうがいいのか。	ご意見として承る。
スイングホール	リーフレット児童生徒アンケートで、支援学級の児童生徒へのアンケートはどのような内容でどのようにしたのか。今後、さらに1クラスの人数が減ることを考えた場合、二六中の教室数は足りるのか。アンケートではスペースが欲しいという声が多い。五中新校舎だと子どもの持ち物の収納場所がなかったりしているが、子どもや先生の声が実態に反映されているのか。支援学校に通っている子どもが普通学校に通うことになった場合の教室数も勘案してほしい。	市内の小中学校の校長に依頼して、学校でアンケートを促してもらった。1クラスの人数は今決まっている人数で進めている。ハード面についての意見は様々なので、すべて取り入れることは難しいと考えている。収納スペースなどは重要だと考えてる。時代とともに荷物量や置き場所も考えている。新たな学校づくりでは、ロッカースペースを別で設けるなども検討しているが、スペースには限りがあるので、バランスよく考える必要がある。少人数学級となった場合でも対応できるようにスケルトンインフィルで可変性を持たせた校舎にすることで将来対応できるように工夫している。
スイングホール	境南小特別支援学級の入学者が二桁になった。この方々が統合した学校に通う場合、どのようにケアするのか。自転車通学も全員は厳しいと考える。未来を見据えた場合、保護者も不安に思うのでは。そこのビジョンはどう考えるか。	審議会の事務局には教育支援課の特別支援担当職員も入っている。第8回の審議会では特別支援の学校づくりについて意見を出し合いながら審議したい。
スイングホール	活性化委員会で、地元の児童生徒が境の農地がどれくらい減っているか発表していたので参考までに。	参考にする。
スイングホール	人口推計の出産年齢設定は。	出生数推計に使用する女性年齢を国立社会保障・人口問題研究所の統計根拠に合わせて、20～44歳としている。前回までの推計では15～49歳としていたと聞いている。
スイングホール	委員の名簿で、委員長、副委員長の決定背景は。元々平成27年で学識経験者に依頼するというのは終わっているはずだが。	初めから決まっていたわけではなく、第一回の審議会の中で決まった。自分から立候補がいなかったのが、他薦という形で正副会長が決まった。

会場	質問	回答
スイングホール	学識経験者が武蔵野市に関する知見があると読み取れない。委員の中にはもっと武蔵野市について詳しい方がいるのになぜこの学識経験者が正副会長になるのか。 第一回審議会の議事録に記載されていないから発言している。議事録に誤りがあるのだったら訂正してほしい。	審議会設置条例施行規則に則って決定している。 (説明会后、第一回議事録を確認した結果) 説明内容・議事録の記載に誤りがなかったことを確認した。
スイングホール	説明会には現役世代が少ないことが気になる。今日は午後から桜野のジャンボリーの説明会があるので、青少協やPTAは準備に追われて参加できなかったのでは。今日きたくてもこれなかったのでは。もう諦めてしまっ来ない人もいる。統廃合がいいよねと思っている人がいるかもしれないが。	ご意見として承る。
スイングホール	12～18学級で先生が増えるというが、必ずしもそうではない。先生が増えても、その分生徒も増えているので変わらないのでは。チーム担任制が導入されていく場合、子どもから見たら先生の数は増えると思うが、先生の立場では今まで自分の学級だけでよかったのが他学級も見なければならぬ。そうすると見る目が薄れるのでは。そういった意味でも大規模校は反対。大規模校だと目が行き届かなくて荒れたり、活躍の場がなくなったり、埋もれてしまったりする。12～18学級が適正だという誤解を与えるのではなく両論併記で周知して欲しい。部活動も増えるというが、今はすでに拠点校方式にしていいて各学校での部活動はセーブしている。顧問の先生が見るのもなくなる方向だし、部活が増えれば場所も取り合いになる。両論併記で書いてほしい。	一人ひとりの子どもにかかわる教員が増える、というのはある。経験上、単学級を受け持ったことがある。その時は、運動会委員長、研究主任、6学年主任(卒業式委員長)になり、ひとりに降りかかる仕事が多くなった経験がある。仕事量については、小規模校と大規模校で違うと思った。大規模校より小規模校の方が校務分掌における重なり(1人が重複して行う業務)が多くなる。教員数が多ければ業務を振り分けられるという利点はある。
スイングホール	嘘はついていないが誤解を与える記載が多い。誠実に書いてほしい	校務分掌についてはあくまで校長としての経験で述べさせていただいた。
スイングホール	校務分掌を軽減できるのは教育委員会では。	ご意見として承る。
スイングホール	お金と先生の負担が問題だと思う。小規模は小規模なりに先生も子どもも逃げ場がない、一つの価値観しかない。大規模はいろんな価値観があるが、取り残されてしまう子が出る。SSWの増員、養護教諭の補助の常駐、カウンセラーの常駐があれば、学校の規模にかかわらず保護者、教員、子どもの負担が減ると思うので、お願いしたい。	ご意見として承る。
スイングホール	16ページの小中一貫のデメリットで、敷地面積が足りないとあるが、小中一貫だと教員数も増えると思う。境南小の設置場所を検討する手もあるのでは。今の場所で建て替えるという発想ありきになっているのではないか。	ご意見として承る。
意見書	最終日の7/4にはなりましたが、アンケート用紙をつけてほしいとの意見を受け止め付けていただきありがとうございます。二次元つけて2, 3日後くらいまで受け付けられるとより良いです。	ご意見として承る。
意見書	説明会では、パブコメ、児童生徒アンケートは紙で配っていただきかった。中間まとめ冊子より少なくてすみます。この意見の内容は重要です。	ご意見として承る。
意見書	六中や三中などの12～18学級よりは小さい規模の学校でのテーマを決めて全生徒で討論する生徒総会やクラス劇、学年劇などの教育活動などが18,19,20学級以上の統合新校の規模の学校ではできなくなるのではないか。宿泊行事も受け入れの事情で現在武蔵野市で行っている活動は出来ないのではないか。今の武蔵野市の13学級以下中学だから出来ている良い教育活動が出来なくなることをどのように考えるのか。	ご意見として承る。
意見書	境の活性化委員会ががんばってまちの活性化を子どもたちも連携してやっているが、中学校をへらすということは、まちの活性化にもマイナスにならないか。境地域への学校に通う世帯の転入が減るのでは。	ご意見として承る。
意見書	10学級の学校でも20学級の学校でも養護教諭は1名、校長1名、副校長1名、SSWは中学校区1名、SCも都、市1名ずつになり1人が対応する子どもの数、教員の数が増えることをどう考えるか。	1名担当の業務については、生徒数が増えることにより業務が増えることは想定される。その分教員数が増えるのでサポート体制を充実することができる。
意見書	教職員が増えすぎたときの連携、コミュニケーションが難しいとの教員の声をどう受け止めるか。	コミュニケーションが難しく感じる声があるのと同時に、様々な方々と関わるができるという声もある。一方で学級数が少なく正規教員が少ない場合、時間講師との情報連携に課題がある。学校規模や学校の実態に合わせてコミュニケーションの取り方は工夫していく必要がある。
意見書	大規模校と小規模校での中学の学年主任や生活指導主任、教務主任の負担を考えたときに大規模校の主任の大変さがあると思うが、どう考えるのか。	教員の数も増えることにより校務分掌で、複数教員でサポートできたりメリットはあると考えられる。
意見書	発達など様々な課題を持っている子どもも増えている。大規模校は適さないのでは。	教員数が増えることで、様々な経験やスキルをもった教員からのアプローチができると考えられる。

会場	質問	回答
意見書	審議会としてまとめた適正規模に満たない学校の方がきめ細かい指導ができるとの意見に対する審議会としての対応方針は「教員の数は～きめ細かい指導ができる」としているが、教員がパブコメで出したメリットデメリットの意見とかみ合っていないがどう考えるか。教育内容の大事な部分もっと議論を。	ご意見として承る。